

2022年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500187	事業の開始年月日	2016年4月1日	
		指定年月日	2022年4月1日	
法人名	株式会社 三協宮城			
事業所名	グループホームあったかいごふるかわ ユニット：せせらぎ			
所在地	(〒 989-6162) 宮城県大崎市古川駅前大通6-3-8			
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名	
		ユニット数	2	
自己評価作成日	2022年12月25日	評価結果 市町村受理日		

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大切にして町内会の行事に参加させて頂いたり、グループホームの行事に参加頂いたり地域との結びつきを大切にしていますが、新型コロナウイルス感染症の為、地域の行事が中止になり職員の協力で利用者様と季節を感じながら過ごせる様にフロア内の飾り付けや行事を行っております。訪問医師、訪問看護、訪問歯科による週1回の訪問で、健康管理を行っており安心して生活して頂いております。自分の出来る事をしながら笑顔で過ごせる施設です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年1月18日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】 ・あったかいごふるかわ理念 「地域と共に 笑顔の中で その人らしく」
【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等 法人である株式会社三協宮城の本社は盛岡市にあり、宮城県では、小規模多機能型居宅介護やグループホームを運営している。事業所は2ユニットの平屋造りで2016年に事業を開始した。JR古川駅の徒歩圏内、市民会館や市民プール、吉野作蔵記念館などが近い市街地にある。
【事業所の優れている点・工夫点】 理念にある「地域と共に 笑顔の中で その人らしく」を日々のケアに生かすよう努めている。コロナ禍ではあるが町内会との交流や、事業所内でのレクリエーションやおしゃべり、手作りで作品を作るなど、利用者が楽しく笑顔で暮らせるよう取り組んでいる。家族に届けている「おあしす新聞」に、利用者がレクリエーションなどを楽しむ様子が掲載されている。協力医療機関の訪問医、訪問看護師、協力歯科医、歯科衛生士が来所し医療と連携が図られている。運営推進会議は昨年11月から対面で再開しているがそれ以前は書面にし、利用者や事業所の状況を「おあしす新聞」を添えて詳細に伝えている。事業所ではキャリアアップ制度を設け、職員のスキルアップ研修や資格取得時には支援を行っている。職員は、経験豊富で長年勤務する人が多い。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	11 ～ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	16 ～ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム あったかいごふるかわ
ユニット名	せせらぎ

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいごふるかわ）「ユニット名：せせらぎ」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える所に掲示し、意識するように心掛けている。全体会議時にも確認を行っています。	毎回全体会議で「あったかいごふるかわ理念」を唱和し確認している。運営推進会議議案書にも理念を記載している。職員はあったかく明るい雰囲気作りに取り組んでいる。理念がケアに生かされていると実感する時は、日常の会話や、レクリエーションの際に利用者の笑顔が見られる時である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが新型コロナウイルスの為地域交流は中止している。	町内会に加入し、地域との関りを大切にしている。例年は町内会の新年会や敬老会、事業所主催の敬老会等で交流があったがコロナ禍で中止になっている。今は町内会から届いたプランターの花に利用者が水やりをし育てており、花が終わる冬にはプランターを回収してくれる。町内会長は運営推進会議のメンバーになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行ない、地域や御家族様に参加頂き、認知症について理解して頂く機会があり、方法も伝えている。今年度も書面にてホームの状況を伝えている。11月から対面での運営推進会議行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は奇数月に年6回書面にて運営推進会議を行っています。日常や行事の様子など取り組みを報告している。返信にてご意見、御提案を頂いている。	年6回、町内会長、区長、地域包括職員、婦人会代表、家族、訪問看護師、ボランティアのメンバーで開催している。コロナ禍により、行事や事業所の状況等、書面で詳細に報告し、利用者の様子は「おあしす新聞」で知らせていた。2022年11月から久々に対面で開催した際には、参加者から良かったとの意見があった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度の地域推進会議は書面にて包括支援センターの職員に参加頂いて報告している。北部保健福祉事務所 高齢者支援班に毎月5日までに入所状況調を報告している。	地域包括職員が運営推進会議メンバーになっており、事業所の運営状況を報告し理解を得ている。市担当者には事業所の運営や入居状況などを報告している。生活保護担当の社会福祉課とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	手を舐める事をやめない利用者の手の平の湿疹や皮むけが軟膏塗布しても良くなり、医師から舐める行為がなければ改善する可能性があるとの事なので治療の為、緊急やむを得ない身体拘束に関する説明書を家族と面談しミトンを使用する現在は手の平の様子も良くなりミトン使用中止している。身体拘束については全体会議で勉強会を行っています。	全体会議の際に身体拘束適正化委員会を開催し、毎回スピーチロックや、身体拘束が必要な場合などの事例をテーマに挙げて話し合い改善に取り組んでいる。また、職員に5項目からなる身体拘束に関するアンケート調査を行い、気づきを促し、ケアに生かしている。外出要求の強い利用者には見守りながら一緒に散歩をしたり、隣のユニットに行くなど気分転換を図っている。防犯上、玄関にセンサーを設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に皮膚の状態をチェックしている。内出血を発見した際は必ず申し送りをしてフィルム保護を行っています。予想される原因の分析を行い対応している。	身体拘束適正化委員会の中で、虐待防止について検討している。スピーチロック等不適切なケアについて振り返り話し合い、利用者の気持ちに寄り添いながら支援するよう、職員間で共有している。職員の精神的負担軽減のために、管理者やフロアの主任が話を聞くように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の研修は行っていないが、推進会議メンバーの地域包括の方に相談できる環境がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の際に御家族へ説明を行っている。契約時に十分な説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、御家族様の来所の際はコミュニケーションを図り、思いを汲み取る様にしている。	管理者は家族が来所時に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いている。利用者と家族の面会は感染予防対策を徹底し、玄関で行っている。請求書を送る際には「おあしす新聞」を同封し、利用者の様子を知らせている。家族会はあるが、コロナ禍で集まれている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で職員の意見を聞く機会を設けており、管理者会議の中で報告している。	職員は全体会議やユニット会議で意見や要望を出している。管理者は人事考課時に行う面談の他、日常的にも職員から意見や要望を聞き、改善に繋げている。資格取得時には経済的な支援がある。コロナ禍で内部研修になっているが、スキルアップのための研修を行っている。当事業所で長年勤務する職員が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所より職員個々の評価をし報告し見直しがある。キャリアアップ制度を設けている。職員一人一人が目標を設定し業務を行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、リーダー、管理職等、段階的な研修の機会があり、積極的に研修に参加するように法人の方向性がある。今年度は新型コロナウイルス感染症の為、行っていない。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度はコロナ感染症の為外部研修や交流を中止している。	コロナ禍で外部との交流を中止している。毎月、同法人内の4事業所合同で行い、管理者会議の内容を職員に報告し周知している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、ご家族様とコミュニケーションを充分に取っている。どのような生活を望まれるか把握し職員間で情報共有を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望や質問があった際は職員間で共有し誰もが返答出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にグループホームに入所することが現在の段階で適切かどうかを話し合い、より適切なケアが提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の場であり常に一方的にならず楽しい事、悲しい事を共有出来る様にしている手伝いを行って頂いた際は必ず感謝の言葉を口にするよう心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌や家族が不足品を持って来所された時に普段の様子を伝えどのようなケアがより適切かを聞き出すようにし、関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会は禁止となっています。	面会は家族のみと制限を設けているが、知らずに知人が来訪しても窓越しで会えるようにしている。関係が途切れないよう手紙のやり取りを支援することもある。今年の正月に帰宅したいとの利用者の要望には、家族以外と会わない事、人ごみに出かけない事など感染予防対策の徹底を依頼して叶えた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より、利用者様同士の関係性に目を向け、認知症状や性格的な事でコミュニケーションが取りにくい方にはスタッフが介入し、席順等、利用者様同士が関われるような環境整備を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行われていない。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話や行動から本人の思いを汲み取る様に努めている。要望の多い物を優先に検討し、ケアに努めている。	日常会話や表情などから思いをくみ取っている。把握が困難な人からは、入浴時や自室で職員と一对一の時など、じっくり関わる時間の中で把握するように努めている。入浴のない日には足浴や、洗濯物やおしぼりをたたむ家事、月に1回の習字、折り紙や花作りなど、生活の中での役割や趣味の継続など、一人ひとりの意向に応えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や、御家族様との会話の中でこれまでの生活環境を把握し可能な限り今までの生活習慣が継続出来るよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、食事量、排泄表を生活記録に記入している。小さな変化や気付きがあれば朝・夕の申し送りで共有している。			
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを検討していく中で課題があった場合には御家族様や関係者に報告し、話し合い現状に即した介護計画になるようにしている。	モニタリングは3ヶ月に1回行い、介護計画は年に2回見直している。介護計画作成担当者が計画を作成し、ケアマネジャーが確認している。介護計画に変更があった際には、ミーティング時に職員全員へ周知している。家族には来所時などに説明し同意を得ている。来所できない家族には郵送している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や業務日誌、申し送りにて職員間で情報の共有をし、介護の見直しに活かすようにしている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応できるよう努めている。関連業者（レンタル事業）の活用に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの為行事へのボランティアの方の参加、町内会の行事への参加は無いが、訪問美容院による、ヘアカットを行っています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時に本人及び、家族の希望を聞いており、ご家族協力のもと、受診対応も行っている。ほとんどの入居者はホームに週1回往診に来ているドクターが診ている。	入居時にかかりつけ医について希望を聞いている。殆どの利用者が協力医療機関の訪問診療を受けている。その他のかかりつけ医に通院する際は、急変時以外は家族が付き添い、事業所から日々の血圧や状態についてなど情報提供をしている。訪問看護師は週に2回来所し、健康管理を行っている。訪問歯科医は2週間に1度、歯科衛生士は週に1度来所している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来て診ている。夜間やその他の時間は電話対応や時には時間外で訪問してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関には利用者様の状態について情報を提供している。又、入院の際は電話連絡等でご家族様から現状や今後について話を聞いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際や重度化した際はご家族に説明するようにしている。往診医に報告、相談している。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明している。医師、看護師の医療連携体制を構築しており、ケアマネジャー、家族で話し合い重度化した場合の方針を決めている。家族の意向で、急変時には入院し退去する人が多い。前年度、看取りはなかった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルはあるが、定期的な訓練は行っていない。事務所にAEDを設置している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に2回の避難訓練を行っている。事務所に防災無線受診機設置している。水害については避難場所の確認を行っています。	年2回、夜間と日中を想定し避難訓練を実施している。市の防災無線を設置し、緊急時には連絡が入る。年2回、業者が設備点検を行っている。非常用食料は2～3日分備蓄している。職員のマスク着用、事業所内の消毒など、感染予防対策を徹底している。	事業所が平屋造りであるため水害時に垂直避難ができない、確実に避難できる場所を確保することを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や個性をスタッフが把握し呼び方や言葉遣いに注意し本人を尊重する対応をしている。	接遇、プライバシー保護の研修を行っている。職員の何気ない言葉遣いから利用者が不穏になることもあるので、毎月スピーチロックや言葉遣いについて話合っている。職員同士で話すときも利用者に聞こえないようにしたり、個人情報が見えないよう配慮している。呼び名は「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、自己決定が出来る様に声掛けし選択肢を活用した会話を実践している。入浴時の衣類を決めてもらっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ、ご本人のペースを大切にしながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネックレスや腕時計など利用者の好む物を自由に身に付けてもらっている。散髪は定期的に訪問の床屋さんを利用している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは決まっているが旬の食材が届き調理している。調理の手伝いや片付けが出来る方は居ないがおしぼり作りや下膳をされる方はいる。	業者から献立に合わせた食材が届く。職員がご飯とみそ汁、おかずを1品作り、メインの調理済みのおかずと組み合わせている。きざみ食、トロミ食にも対応している。利用者にもわかるよう、メニューを掲示している。誕生日などの行事では職員がケーキを手作りして一緒に楽しんでいる。食器拭きやおしぼりの準備を手伝う利用者もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録でチェックしている。糖尿病の方は過度な摂取にならないようご飯を測り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。1人1人の状態に合わせた口腔ケアを支援している。週1回の訪問歯科を利用し磨き方の指導を受けている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。失禁が多いからオムツに変えるのではなくトイレ誘導回数を増やし対応している。	排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。朝・食前・食後など、その人のタイミングに合わせた間隔で誘導している。夜間は、定期的にトイレに誘導したり、その人の状態に合わせオムツやパッドなど使用している。便秘対策として訪問看護師の指示を受けたり、水分補給や医師が処方した薬を服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後トイレ誘導を行ったり、水分を多く摂って頂く様にしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日を決めずに対応浴している本人の希望に合わせているが週に2回は入浴出来る様に配慮している。時間帯に関しては希望に添えていない。	入浴は週2回を基本に、利用者の希望に合わせて支援している。利用者の好きな入浴剤を使用するなど、楽しく入浴ができるよう取り組んでいる。車いすの人は足浴をしながらシャワー浴で清潔保持に努めている。入浴を好まない人は、工夫しながら誘導し入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望に合わせ、自由に休息を取っていただいている。テレビをつけたまま休みたい方もおり希望に応じた対応を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用については理解しているが副作用までは十分に理解出来ていない。服薬に関しては個々に合わせた支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に合った支援を行っている。洗濯物たみや唄、塗り絵、季節の飾り等一緒に行ったり天気のいい日は外気浴行っている。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の為、買い物、町内会の行事へ参加していない。車に乗ったままで桜を見にドライブ行っています。家族に協力してもらい美容院へ行く等している。	コロナ禍なので車から降りずに、季節毎、桜やひまわり、菜の花を見にドライブに行っている。家族と通院の際に、ドライブに行く利用者もいる。暖かい日には、事業所の玄関先で花を見たり、コーヒーを楽しむなど気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他者トラブルになりかけた事も有りご家族様に説明し、ご家族様に管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話やスマートフォンを持っている方もいる。自由にご家族様や友人に電話している。手紙は受け取りのみになっているが本人に読み聞かせている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為、掲示物は毎月、一部の利用者に手伝ってもらいながら、作り変えている。エアコン・加湿器を使用し、居心地の良い空間作りを心掛けている。空気の換気にも気を付けている。	リビングには日めくりカレンダーや時計、利用者と職員が一緒に手作りした季節ごとの作品、利用者の書いた習字の作品が掲示されている。好きな場所でくつろげるよう、ソファを設置し、温・湿度を職員が管理している。トイレの表示をわかりやすくし、居室には名札を掛け、見当識に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性にも配慮し、いつも1人1人が、快適に過ごせる様に席替え・テーブルの配置に気を配っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた、馴染みの品々を身近に置く事により、落ち着いた毎日を過ごして頂いている。テレビや家族の写真などを持ち込んでいる。	居室にはエアコン、洗面台、ベッド、クローゼットが備えてある。利用者は使い慣れた物入れや家族の写真、位牌やテレビなどを持ち込み居心地良く整え過ごしている。居室担当者は、衣替えや居室の整理整頓、車いすの掃除などを行っている。加湿器は個別に事業所が貸し出し、温・湿度を職員が管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境を利用者様の身体状況に合わせている。居室やトイレには迷わない様に名前を貼っている。廊下やリビングに不要な物を置かない様にしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491500187	事業の開始年月日	2016年4月1日		
		指 定 年 月 日	2022年4月4日		
法人名	株式会社 三協宮城				
事業所名	グループホーム あったかいごふるかわ ユニット：そよかぜ				
所在地	(〒 989-6162)				
	宮城県大崎市古川駅前大通6-3-8				
サービス種別 及び定員等	認知症対応型共同生活介護		定員 計	18 名	
			ユニット数	2	
自己評価作成日	2022年12月25日	評 価 結 果 市町村受理日			

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との関わりを大切にして町内会の行事に参加させて頂いたり、グループホームの行事に参加頂いたり地域との結びつきを大切にしていますが、新型コロナウイルス感染症の為、地域の行事が中止になり職員の協力で利用者様と季節を感じながら過ごせる様にフロア内の飾り付けや行事を行っております。訪問医師、訪問看護、訪問歯科による週1回の訪問で、健康管理を行っており安心して生活して頂いております。自分の出来る事をしながら笑顔で過ごせる施設です。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人介護・福祉サービス非営利団体ネットワークみやぎ		
所在地	宮城県仙台市青葉区柏木一丁目2番45号 フォレスト仙台5階		
訪問調査日	2023年1月18日	評価機関 評価決定日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の理念】

・あったかいごふるかわ理念 「地域と共に 笑顔の中で その人らしく」

【事業所の概要】母体法人について・立地環境・建物の特徴等

法人である株式会社三協宮城の本校は盛岡市にあり、宮城県では、小規模多機能型居宅介護やグループホームを運営している。事業所は2ユニットの平屋造りで2016年に事業を開始した。JR古川駅の徒歩圏内、市民会館や市民プール、吉野作蔵記念館などが近い市街地にある。

【事業所の優れている点・工夫点】

理念にある「地域と共に 笑顔の中で その人らしく」を日々のケアに生かすよう努めている。コロナ禍ではあるが町内会との交流や、事業所内でのレクリエーションやおしゃべり、手作りで作品を作るなど、利用者が楽しく笑顔で暮らせるよう取り組んでいる。家族に届けている「おあしす新聞」に、利用者がレクリエーションなどを楽しむ様子が掲載されている。協力医療機関の訪問医、訪問看護師、協力歯科医、歯科衛生士が来所し医療と連携が図られている。運営推進会議は昨年11月から対面で再開しているがそれ以前は書面にし、利用者や事業所の状況を「おあしす新聞」を添えて詳細に伝えている。事業所ではキャリアアップ制度を設け、職員のスキルアップ研修や資格取得時には支援を行っている。職員は、経験豊富で長年勤務する人が多い。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 9
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	10
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	11 ～ 15
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	16 ～ 22
V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム あったかいごふるかわ
ユニット名	そよかぜ

V.サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項 目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、やりがいと責任を持って働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目：49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果（事業所名 グループホームあったかいごふるかわ）「ユニット名:そよかせ」

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	常に見える所に掲示し、意識するように心掛けている。全体会議時にも確認を行っています。	毎回全体会議で「あったかいごふるかわ理念」を唱和し確認している。運営推進会議議案書にも理念を記載している。職員はあったかく明るい雰囲気作りに取り組んでいる。理念がケアに生かされていると実感する時は、日常の会話や、レクリエーションの際に利用者の笑顔が見られる時である。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しているが新型コロナウイルス感染症の為地域交流は中止している。	町内会に加入し、地域との関りを大切にしている。例年は町内会の新年会や敬老会、事業所主催の敬老会等で交流があったがコロナ禍で中止になっている。今は町内会から届いたプランターの花に利用者が水やりをし育てており、花が終わる冬にはプランターを回収してくれる。町内会長は運営推進会議のメンバーになっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を行ない、地域や御家族様に参加頂き、認知症について理解して頂く機会があり、方法も伝えている。今年度も書面にてホームの状況を伝えている。11月から対面での運営推進会議行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は奇数月に年6回書面にて運営推進会議を行っています。。日常や行事の様子など取り組みを報告している。返信にてご意見、御提案を頂いている。	年6回、町内会長、区長、地域包括職員、婦人会代表、家族、訪問看護師、ボランティアのメンバーで開催している。コロナ禍により、行事や事業所の状況等、書面で詳細に報告し、利用者の様子は「おあしす新聞」で知らせていた。2022年11月から久々に対面で開催した際には、参加者から良かったとの意見があった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	今年度の地域推進会議は書面にて包括支援センターの職員に参加頂いて報告している。北部保健福祉事務所 高齢者支援班に毎月5日までに入所状況調を報告している。	地域包括職員が運営推進会議メンバーになっており、事業所の運営状況を報告し理解を得ている。市担当者には事業所の運営や入居状況などを報告している。生活保護担当の社会福祉課とも連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内勉強会を行い、身体拘束をしないケアについて職員が理解し取り組んでいる。徘徊のある方には、見守りを重視し、一緒に散歩したり、隣のユニットに訪問する等の対応をしている。	全体会議の際に身体拘束適正化委員会を開催し、毎回スピーチロックや、身体拘束が必要な場合などの事例をテーマに挙げて話し合い改善に取り組んでいる。また、職員に5項目からなる身体拘束に関するアンケート調査を行い、気づきを促し、ケアに生かしている。外出要求の強い利用者には見守りながら一緒に散歩をしたり、隣のユニットに行くなど気分転換を図っている。防犯上、玄関にセンサーを設置している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時に皮膚の状態をチェックしている。内出血を発見した際は必ず申し送りをしフィルム保護を行っています。予想される原因の分析を行い対応している。	身体拘束適正化委員会の中で、虐待防止について検討している。スピーチロック等不適切なケアについて振り返り話し合い、利用者の気持ちに寄り添いながら支援するよう、職員間で共有している。職員の精神的負担軽減のために、管理者やフロアの主任が話を聞くように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度の研修は行っていないが、推進会議メンバーの地域包括の方に相談できる環境がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前の見学の際に御家族へ説明を行っている。契約時に十分な説明を行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置や、御家族様の来所の際はコミュニケーションを図り、思いを汲み取る様にしている。	管理者は家族が来所時に利用者の様子を伝え、意見や要望を聞いている。利用者と家族の面会は感染予防対策を徹底し、玄関で行っている。請求書を送る際には「おあしす新聞」を同封し、利用者の様子を知らせている。家族会はあるが、コロナ禍で集まれているいない。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で職員の意見を聞く機会を設けており、管理者会議の中で報告している。	職員は全体会議やユニット会議で意見や要望を出している。管理者は人事考課時に行う面談の他、日常的にも職員から意見や要望を聞き、改善に繋げている。資格取得時には経済的な支援がある。コロナ禍で内部研修になっているが、スキルアップのための研修を行っている。当事業所で長年勤務する職員が多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業所より職員個々の評価をし報告し見直しがある。キャリアアップ制度を設けている。職員一人一人が目標を設定し業務を行っています。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人、リーダー、管理職等、段階的な研修の機会があり、積極的に研修に参加するように法人の方向性がある。今年度は新型コロナウイルス感染症の為、行っていない。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	今年度はコロナ感染症の為外部研修や交流を中止している。	コロナ禍で外部との交流を中止している。毎月、同法人内の4事業所合同で行い、管理者会議の内容を職員に報告し周知している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人、ご家族様とコミュニケーションを充分に取っている。どのような生活を望まれるか把握し職員間で情報共有を行っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様からの要望や質問があった際は職員間で共有し誰もが返答出来る様にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前にグループホームに入所することが現在の段階で適切かどうかを話し合い、より適切なケアが提供できるように対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として共に暮らす家族として楽しい事悲しい事を共有出来るような関係作りにつとめている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の広報誌や面会時に普段の様子を伝えどのようなケアがより適切かを聞き出すようにし、関係を築いている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの為面会は禁止となっています。	面会は家族のみと制限を設けているが、知らずに知人が来訪しても窓越しで会えるようにしている。関係が途切れないよう手紙のやり取りを支援することもある。今年の正月に帰宅したいとの利用者の要望には、家族以外と会わない事、人ごみに出かけない事など感染予防対策の徹底を依頼して叶えた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃より、利用者様同士の関係性に目を向け、スタッフが介入し、席順等、利用者様同士が関われるような環境整備を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在の所、その様な状況は無いが関係の継続については、重要性を十分認識しており、その様な状況があれば実施する。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常会話や行動から本人の思いを汲み取る様に努めている。要望の多い物を優先に検討し、ケアに努めている。	日常会話や表情などから思いをくみ取っている。把握が困難な人からは、入浴時や自室で職員と一对一の時など、じっくり関わる時間の中で把握するように努めている。入浴のない日には足浴や、洗濯物やおしぼりをたたむ家事、月に1回の習字、折り紙や花作りなど、生活の中での役割や趣味の継続など、一人ひとりの意向に応えるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や、御家族様から生活歴やサービス利用歴を把握するよう努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル、食事量、排泄表を生活記録に記入している。変化や気付きがあれば朝・夕の申し送りで共有している。			
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングを検討していく中で課題があった場合には御家族様や関係者に報告し、話し合い現状に即した介護計画になるようにしている。	モニタリングは3ヶ月に1回行い、介護計画は年に2回見直している。介護計画作成担当者が計画を作成し、ケアマネジャーが確認している。介護計画に変更があった際には、ミーティング時に職員全員へ周知している。家族には来所時などに説明し同意を得ている。来所できない家族には郵送している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録や業務日誌、申し送りにて職員間で情報の共有をし、介護の見直しに活かすようにしている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟に対応できるよう努めている。関連業者（レンタル事業）の活用に心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの為行事へのボランティアの方の参加、町内会の行事への参加は無いが、訪問美容院による、ヘアカットを行っています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は入所時に本人及び、家族の希望を聞いており、ご家族協力のもと、受診対応も行っている。ほとんどの入居者はホームに週1回往診に来ているドクターが診ている。	入居時にかかりつけ医について希望を聞いている。殆どの利用者が協力医療機関の訪問診療を受けている。その他のかかりつけ医に通院する際は、急変時以外は家族が付き添い、事業所から日々の血圧や状態についてなど情報提供をしている。訪問看護師は週に2回来所し、健康管理を行っている。訪問歯科医は2週間に1度、歯科衛生士は週に1度来所している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週1回来て診ている。夜間やその他の時間は電話対応や時には時間外で訪問してくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先の医療機関には利用者様の状態について情報を提供している。又、入院の際は電話連絡等でご家族様から現状や今後について話を聞いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際や重度化した際はご家族に説明するようにしている。往診医に報告、相談している。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」を家族に説明している。医師、看護師の医療連携体制を構築しており、ケアマネジャー、家族で話し合い重度化した場合の方針を決めている。家族の意向で、急変時には入院し退去する人が多い。前年度、看取りはなかった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルはあるが、定期的な訓練は行っていない。事務所にAEDを設置している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一年に2回の避難訓練を行っている。事務所に防災無線受診機設置している。水害については避難場所の確認を行っています。	年2回、夜間と日中を想定し避難訓練を実施している。市の防災無線を設置し、緊急時には連絡が入る。年2回、業者が設備点検を行っている。非常用食料は2～3日分備蓄している。職員のマスク着用、事業所内の消毒など、感染予防対策を徹底している。	事業所が平屋造りであるため水害時に垂直避難ができない、確実に避難できる場所を確保することを期待する。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(16)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格や個性をスタッフが把握し呼び方や言葉遣いに注意し本人を尊重する対応をしている。	接遇、プライバシー保護の研修を行っている。職員の何気ない言葉遣いから利用者が不穏になることもあるので、毎月スピーチロックや言葉遣いについて話合っている。職員同士で話すときも利用者に聞こえないようにしたり、個人情報が見えないよう配慮している。呼び名は「さん」付けで呼んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけしている	出来るだけ、本人の思いを聞き取り自己決定が出来る様に選択肢を活用した会話を実践している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースに合わせ希望に沿う様個別性のある支援を行っています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ネックレスや腕時計など利用者の好む物を自由に身に付けてもらっている。散髪は定期的に訪問の床屋さんを利用している。			
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニューを書いて頂いたり、おしぼりを丸めたり、食器拭きを手伝って頂いている。	業者から献立に合わせた食材が届く。職員がご飯とみそ汁、おかずを1品作り、メインの調理済みのおかずと組み合わせている。きざみ食、トロミ食にも対応している。利用者にもわかるよう、メニューを掲示している。誕生日などの行事では職員がケーキを手作りして一緒に楽しんでいる。食器拭きやおしぼりの準備を手伝う利用者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事摂取や水分量は、毎日チェックし食べやすい状態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している。1人1人の状態に合わせた口腔ケアを支援している。週1回の訪問歯科を利用し磨き方の指導を受けている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の確認を行い、出来るだけスキントラブルにならない様に、トイレでの排泄を促し誘導を行っています。	排泄パターンを把握し、トイレで排泄ができるよう支援している。朝・食前・食後など、その人のタイミングに合わせた間隔で誘導している。夜間は、定期的にトイレに誘導したり、その人の状態に合わせオムツやパッドなど使用している。便秘対策として訪問看護師の指示を受けたり、水分補給や医師が処方した薬を服用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後トイレ誘導を行ったり、水分を多く摂って頂く様にしている。自然排便の困難な方もおり往診医と相談しながら下剤でコントロールしている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	なるべく、本人の希望に合わせているが週に2回は入浴出来る様に配慮し、清潔でいられる様にしている。又、入浴剤を使用し気分転換を図っている。	入浴は週2回を基本に、利用者の希望に合わせて支援している。利用者の好きな入浴剤を使用するなど、楽しく入浴ができるよう取り組んでいる。車いすの人は足浴をしながらシャワー浴で清潔保持に努めている。入浴を好まない人は、工夫しながら誘導し入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人の体調や意向に沿って休息をとって頂いたり、外気浴や入浴を行い気持ちよく休んで頂ける様に努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の作用については理解しているが副作用までは十分に理解出来ていない。服薬に関しては個々に合わせた支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの状態、趣味等を考慮し御本人のペースで、縫い物や、洗濯物たたみ等して頂き、役に立っているという喜びを持って頂く。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染症の為、買い物、町内会の行事へ参加していない。暖かい日は玄関前で外気浴を行っています。	コロナ禍なので車から降りずに、季節毎、桜やひまわり、菜の花を見にドライブに行って楽しんでいる。家族と通院の際に、ドライブに行く利用者もいる。暖かい日には、事業所の玄関先で花を見たり、コーヒーを楽しむなど気分転換をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他者トラブルになりかけた事も有りご家族様に説明し、ご家族様に管理をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は受け取りのみになっているが本人に読み聞かせている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れる為、掲示物は毎月、一部の利用者に手伝ってもらいながら、作り変えている。エアコン・加湿器を使用し、居心地の良い空間作りを心掛けている。空気の換気にも気を付けている。	リビングには日めくりカレンダーや時計、利用者と職員が一緒に手作りした季節ごとの作品、利用者の書いた習字の作品が掲示されている。好きな場所でくつろげるよう、ソファを設置し、温・湿度を職員が管理している。トイレの表示をわかりやすくし、居室には名札を掛け、見当識に配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士の関係性にも配慮し、いつも1人1人が、快適に過ごせる様に席替え・テーブルの配置に気を配っている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた、馴染みの品々を身近に置く事により、落ち着いた毎日を過ごして頂いている。テレビや家族の写真などを持ち込んでいる。	居室にはエアコン、洗面台、ベッド、クローゼットが備えてある。利用者は使い慣れた物入れや家族の写真、位牌やテレビなどを持ち込み居心地良く整え過ごしている。居室担当者は、衣替えや居室の整理整頓、車いすの掃除などを行っている。加湿器は個別に事業所が貸し出し、温・湿度を職員が管理している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の環境を利用者様の身体状況に合わせている。居室やトイレには迷わない様に名前を貼っている。廊下やリビングに不要な物を置かない様にしている。		